2023年度

日本健康医療専門学校

シラバス (講義概要)

鍼灸学科

2年生

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	社会科学2(社会保険制度)	
福井丈郎	専門学校法律関連科目講師 中小企業診断士 行政書士 F P		
必修	2単位 (30時間)	講義	3年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>日本国憲法第25条に規定する理念に基づき制定されている様々な社会保障制度の内、特に疾病、老齢、失業、労働災害などの事由に基づき給付される社会保険制度について取り上げ講義を行う。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>日本の社会保険制度を理解し患者等に適切な指導助言ができる知識を得ること。</p>			
2. 授業内容			
<p>第1回 ガイダンス 社会保険制度の全体像</p> <p>第2回 公的医療保険の全体像 健康保険と国民健康保険の仕組み</p> <p>第3回 年金保険① 国民年金と厚生年金の仕組み</p> <p>第4回 年金保険② 老齢給付 障害給付 遺族給付</p> <p>第5回 介護保険 介護保険の仕組み</p> <p>第6回 雇用保険① 雇用保険の仕組み</p> <p>第7回 雇用保険② 失業給付 就職促進給付 教育訓練給付</p> <p>第8回 労災保険① 労災保険の仕組み</p> <p>第9回 労災保険② 療養補償給付 休業補償給付 傷病補償給付 障害補償給付</p> <p>第10回 民間保険① 民間保険の仕組み</p> <p>第11回 民間保険② 定期保険 養老保険 終身保険 医療保険</p> <p>第12回 損害保険の仕組み</p> <p>第13回 個人年金保険</p> <p>第14回 社会保険と税金</p> <p>第15回 最終評価</p>			
3. 履修上の注意			
出席状況を成績評価の中心にする。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。			
5. 教科書			
指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。			
6. 参考書			
特になし			
7. 成績評価の方法			
最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。			
8. その他			

分野	科学的思考の基礎 人間と生活	保健体育	
滝澤 航	私立中高一貫校にて保健体育の授業担当		
必修	2単位 (30時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 心と体を一体としてとらえ、スポーツの専門的な理解と、高度な技術の修得だけではなく、その実践から生まれる豊かな心の発達を体験的に学習する。			
〈到達目標〉 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、豊かで明るい活力のある生活を営む態度を育てることが本講義の目標である。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション 授業の進め方と諸注意		
2回	体力トレーニング 基礎理論と筋力トレーニングについて		
3回	体力トレーニング 持久力トレーニングと調整力・柔軟性のトレーニングについて		
4回	応急手当の意義とその基本 適切な応急手当の意義・基礎的な事項を理解する		
5回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
6回	生涯スポーツの見方・考え方 各ライフステージに応じたスポーツの特徴について学ぶ		
7回	ライフステージに応じたスポーツ 自分に合ったスポーツライフステージを見つけよう		
8回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
9回	心身の相関とストレス 心身相関のしくみ、ストレスの影響について学ぶ		
10回	心と健康状況 ストレスへのさまざまな対処方法について学ぶ		
11回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
12回	スポーツ文化と国際理解 スポーツを通しての文化や国際交流の意味を考え理解する		
13回	脳と運動の関係 身体を動かして脳を活性化させる		
14回	スポーツと環境 スポーツ活動にともなう環境問題や環境保護について学ぶ		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業で使用したプリントの復習			
5 教科書			
特になし			
6 参考書			
講師作成プリント			
7 成績評価の方法			
定期試験・授業出席状況で評価を行う			
8 その他			
日本体育大学 体育学部卒 中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学概論（病理学）	
瀧本 雄太	鍼灸整骨院経営		
必修	2単位（60時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 「人体の生理機能がぐずれたとき、身体に何が起きているのか」をテーマに、人の疾病理解の基礎となる病因・発生機序・経過・予後など、疾病概念の本質を理解し、基礎的疾患に共通する総括的問題、すなわち退行性病変・代謝異常症・進行性病変・循環障害・炎症・免疫・腫瘍などを中心として、次の事項を学習する。			
〈到達目標〉 ①ヒトの組織・細胞・遺伝子障害とその修復について説明できる。②代謝障害、循環障害、炎症・免疫、腫瘍について説明できる。③ヒトの各臓器の主な疾病とその症状について説明できる。④本学科の学習を通じて国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての力を習得できる。 本講義の到達目標は病気概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにある。			
2 授業内容			
1回	第1章 総論 第2章 疾病の基本的考え方	16回	第8章 腫瘍③
2回	第3章 病因①	17回	第9章 免疫異常・アレルギー①
3回	第3章 病因②	18回	第9章 免疫異常・アレルギー②
4回	第3章 病因③	19回	第10章 先天性異常①
5回	第4章 循環障害①	20回	第10章 先天性異常②
6回	第4章 循環障害②		
7回	第5章 退行性病変①		
8回	第5章 退行性病変②		
9回	第6章 進行性病変①		
10回	第6章 進行性病変②		
11回	第7章 炎症①		
12回	第7章 炎症②		
13回	第7章 炎症③		
14回	第8章 腫瘍①		
15回	第8章 腫瘍②		
3 履修上の注意			
日常生活で耳馴染みな疾患から、そうでない疾患まで人間の疾病理解の基礎学問である。 意欲的に取り組んでもらいたい。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
生理学の知識を問われる内容が多いため、一年生で履修した生理学をよく復習し臨んでもらいたい。 授業の復習は下線、カッコ抜き箇所、加筆した部分を中心に理解と暗記に徹してもらいたい。			
5 教科書			
公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『病理学概論 第2版』 医歯薬出版株式会社			
6 参考書			
サブテキストを配布する。			
7 成績評価の方法			
出席、受講態度（教科書忘れ、私語、飲食、ガムを噛む、スマートフォンの使用や机上放置等の禁止行為）、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60%以上を合格とする。			
8 その他			
スマートフォンやデジタルカメラ等の器機による講義内容や板書の録音、録画は一切禁止とする。			

専門基礎	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学総論1	
町田 良太	鍼灸院経営、中学・高校の部活動のトレーナーも務める。		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 本講義では、医療従事者として必要な身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。 視診や触診、打診、聴診といった基本的な西洋医学的診察方法を理解しバイタルサインの測定方法とその意義、全身各部位の診察方法やその所見についての知識を修得する。			
〈到達目標〉 患者を理解し正しく診断して適切な医療を行う上ことができるようになる。また、鍼灸臨床における患者理解や、チーム医療の一員として鍼灸師が他の医療従事者と協力して患者の治療にあたることのできるようになる。身体診察に関する知識は臨床医学各論や東洋医学臨床論などの臨床科目にも深く関係するため、関連付けて理解することも目標となる。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	16回	全身の診察
2回	医療面接	17回	全身の診察
3回	医療面接	18回	全身の診察
4回	視診・触診・打診・聴診	19回	全身の診察
5回	バイタルサインの診察	20回	全身の診察
6回	バイタルサインの診察	21回	全身の診察
7回	バイタルサインの診察	22回	全身の診察
8回	バイタルサインの診察	23回	全身の診察
9回	神経系の診察	24回	全身の診察
10回	神経系の診察	25回	全身の診察
11回	神経系の診察	26回	局所の診察
12回	神経系の診察	27回	局所の診察
13回	神経系の診察	28回	局所の診察
14回	神経系の診察	29回	局所の診察
15回	試験解説	30回	試験解説
3 履修上の注意			
居眠り等せず、積極的に参加すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと			
5 教科書			
臨床医学総論 医歯薬出版			
6 参考書			
特になし			
7 成績評価の方法			
試験による			
8 その他			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学各論1	
瀧本 雄太	鍼灸整骨院の経営		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。この時間では主に整形外科疾患、婦人科疾患、精神化疾患などを中心に学習する。			
〈到達目標〉 臨床医学の中でもはり師きゅう師が臨床上最も治療にあたる頻度が高い整形外科疾患と、婦人科疾患や精神科疾患などを含めたその他の領域に関して知識を修得することで、臨床に際しても患者理解を深め、適切な施術が行えるようになることが目標となる。			
2 授業内容			
1回	A.総論 B.関節疾患①	16回	I.その他の整形外科疾患②
2回	B.関節疾患②	17回	13-A.小児科疾患
3回	B.関節疾患③	18回	13-B.一般外科①
4回	C.骨代謝性疾患・骨腫瘍①	19回	13-B.一般外科②
5回	C.骨代謝性疾患・骨腫瘍②	20回	13-B.一般外科③
6回	D.筋・腱疾患①		
7回	D.筋・腱疾患②		
8回	E.形態異常①		
9回	E.形態異常②		
10回	F.脊椎疾患①		
11回	F.脊椎疾患②		
12回	G.脊髄損傷		
13回	H.外傷①		
14回	H.外傷②		
15回	I.その他の整形外科疾患①		
3 履修上の注意			
整形外科疾患は鍼灸・整骨院の臨床現場でよく遭遇する疾患が多い。卒業後の現場で活かせる知識を、経験談を交え授業を進めていく。意欲的に取り組んでもらいたい。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
整形外科疾患を理解するため身体構造、特に解剖学、生理学の知識復習をして臨んでもらいたい。 授業の復習は下線、カッコ抜き箇所、加筆した部分を中心に理解と暗記に徹してもらいたい。			
5 教科書			
公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『臨床医学各論 第2版』 医歯薬出版株式会社			
6 参考書			
サブテキストを配布する。			
7 成績評価の方法			
出席、受講態度（教科書忘れ、私語、飲食、ガムを噛む、スマートフォンの使用や机上放置等の禁止行為）、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60%以上を合格とする。			
8 その他			
スマートフォンやデジタルカメラ等の器機による講義内容や板書の録音、録画は一切禁止とする。			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学各論2	
菅谷 匡美	大学病院附属鍼灸センターの実務経験 個人で訪問治療を行う。		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなって いる中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識に ついてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。			
〈到達目標〉 特にこの時間では、超高齢社会において罹患数が増えてきている消化管疾患、肝胆膵疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患に関する知識を修得すること で、臨床に際して病を抱えた患者の気持ちに寄り添えるよう患者理解を深めることが目標となる。			
2 授業内容			
1回	消化管疾患 (1) 口腔疾患、	16回	(2) 肺炎、肺結核
2回	(2) 食道疾患 胃十二指腸疾患	17回	(3) 非結核性抗酸菌症、COPD①
3回	(3) 胃食道逆流症～胃十二指腸潰瘍	18回	(4) COPD②
4回	(4) ピロリ～その他の胃疾患	19回	(5) COPD③
5回	(5) 腸疾患 急性腸炎～IBS	20回	(6) 拘束性呼吸器疾患①
6回	(6) 腸疾患 虫垂炎、イレウス	21回	(7) 肺癌、気管支拡張症
7回	(7) その他の腸疾患・腹膜疾患	22回	(8) 肺塞栓症、睡眠時無呼吸症候群
8回	肝胆膵疾患 (1) 急性・慢性肝炎	23回	腎・尿器疾患 (1) 原発性糸球体腎炎
9回	(2) 肝硬変、代謝性肝疾患	24回	(2) ネフローゼ症候群、急性腎障害
10回	(3) アルコール性肝障害、肝癌	25回	(3) 慢性腎臓病、腎盂腎炎
11回	(4) その他の肝疾患～胆嚢炎	26回	(4) 膀胱癌、腎細胞癌
12回	(5) 胆道癌～急性膵炎	27回	(5) 尿管結石、前立腺疾患
13回	(6) 慢性膵炎、膵臓癌	28回	(6) 糖尿病性腎症、子宮疾患
14回	問題演習	29回	問題演習
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
前回の授業内容の復習を行うこと			
5 教科書			
臨床医学各論 医歯薬出版社			
6 参考書			
臨床医学総論 医歯薬出版社			
7 成績評価の方法			
定期試験1 および定期試験2 それぞれ60%以上の成績を合格とする。			
8 その他			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	衛生学・公衆衛生学	
木下 立彦	開業鍼灸師		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 衛生学は「健康な生活をおくるためには何が必要か」をテーマに、生活環境を物理的・化学的・生物学的社会因子として考え、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ学問である。家庭・学校・職場・地域社会といった生活環境とのかかわりや食事と栄養、運動などのライフスタイル、メンタルヘルスを中心に健康の保持・増進のために必要な事を学ぶ。			
〈到達目標〉 病気の予防や健康増進の知識、衛生行政の仕組みや衛生統計、鍼灸師として必須の知識となる消毒法や感染予防対策についても学び、健康について多方面にわたる知識を身に付けることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義①	16回	精神保健①
2回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義②	17回	母子保健①
3回	健康①	18回	学校保健①
4回	健康②	19回	学校保健②
5回	健康③	20回	成人・高齢者の保健①
6回	ライフスタイルと健康①	21回	成人・高齢者の保健②
7回	ライフスタイルと健康②	22回	感染症①
8回	ライフスタイルと健康③	23回	感染症②
9回	環境と健康①	24回	消毒法①
10回	環境と健康②	25回	消毒法②
11回	産業保健①	26回	疫学①
12回	産業保健②	27回	疫学②
13回	精神保健①	28回	保健統計①
14回	まとめ①	29回	まとめ②
15回	定期試験①	30回	定期試験②
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机の上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内で確認テスト適宜行う予定			
5 教科書			
衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）			
6 参考書			
シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）			
7 成績評価の方法			
1、定期試験①60％・定期試験②60％で単位認知する 2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある			
8 その他			
シラバスは状況により変更することがあります その時は適宜お伝えします			

専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	社会保障制度、職業倫理	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験 現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	1単位（15時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉			
医療保険に関わるはり師・きゅう師の立場として、わが国の社会保障制度を理解することは不可欠である。また、医の倫理、インフォームドコンセントなどを患者に対応する立場として理解することも必要である。この講義では、はり師・きゅう師が関わる医療保険をはじめとする社会保障制度を理解し、医の倫理をとその考え方の変遷を理解し、現代の臨床での具体的な事由などを取り上げて、理解し実践出来ることを目標に学習する。			
〈到達目標〉			
社会保険制度を理解し、医療保険を業務で適正に利用することが出来るようにすること、また医療保険以外でも患者に適切な指示や助言が出来るようすることを目標とする。職業倫理に関しては、はり師・きゅう師として必要な職業倫理を理解し実践することが出来るようにする。			
2 授業内容			
1回	社会保障について		
2回	社会保険		
3回	医療保険①		
4回	医療保険②		
5回	高齢者医療		
6回	介護保険		
7回	職業倫理、医療倫理の変遷		
8回	近代医学での医療倫理		
9回	医療者の倫理		
10回	施術者の倫理		
3 履修上の注意			
出席と授業態度が重要であるため、休まずに出席し授業には集中して臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
日本の社会保障制度について事前に調べておくこと。			
5 教科書			
授業の際にプリントを配布する。			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
筆記試験（定期試験）にて60%を合格とする。 小テスト、レポートがあった場合その得点を成績に加味する。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	東洋医学臨床論1	
阿部 好史	鍼灸院の実務経験、臨床歴経験有 開業鍼灸師		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉			
東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ学問である。この時間では主要症候のうち頭痛、めまい、咳と喘息、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月経異常、不眠を中心に学習していく。			
上記の症候についてその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的に学んでいく。			
〈到達目標〉			
この時間では主要症候のうち頭痛、咳と喘息、めまい、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月経異常を中心にその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることを最終的な目標とする。			
2 授業内容			
1回	治療総論と基礎の復習	16回	咳嗽・喀痰・呼吸困難
2回	睡眠障害	17回	咳嗽・喀痰・呼吸困難
3回	睡眠障害	18回	歯痛
4回	睡眠障害	19回	歯痛
5回	眩暈	20回	耳鳴り難聴
6回	眩暈	21回	耳鳴り難聴
7回	気分障害	22回	耳鳴り難聴
8回	気分障害	23回	冷え・冷えのぼせ
9回	眼精疲労	24回	冷え・冷えのぼせ
10回	眼精疲労	25回	月経不順・崩漏
11回	眼精疲労	26回	月経不順・崩漏
12回	便秘	27回	痛経
13回	便秘	28回	痛経
14回	下痢	29回	骨盤位
15回	下痢	30回	総復習
3 履修上の注意			
何かに臨むときは準備が必要です。試験を受けるときは試験の準備をし、試合をするときは試合の準備をします。講義を受けるときも同じです。本講義に限らず座学は睡魔との闘い、「意欲と努力で克服する心構え！」自分で決めた道です。これを準備して臨むこと！			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
臓腑生理と五行表は暗記必須			
5 教科書			
東洋医学臨種論 東洋医学概論			
6 参考書			
東医四診の手引き			
7 成績評価の方法			
定期試験を各60点以上で合格			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	東洋医学臨床論2	
高松 巧	鍼灸接骨院の実務経験		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ学問である。 この時間では主要症候のうち特に鍼灸臨床で取り扱う頻度の高い腰下肢痛、肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛、膝関節痛、運動麻痺といった整形外科疾患を中心に学習していく。			
〈到達目標〉 上記の症候についてその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることが最終的な目標となる。			
2 授業内容			
1回	痺証①	16回	膝関節痛①
2回	痺証②	17回	膝関節痛②
3回	頸肩腕痛①	18回	運動麻痺①
4回	頸肩腕痛②	19回	運動麻痺②
5回	頸肩腕痛③	20回	運動麻痺③
6回	肩こり①	21回	スポーツ鍼灸①
7回	肩こり②	22回	スポーツ鍼灸②
8回	上肢痛①	23回	老年期の鍼灸治療
9回	上肢痛②	24回	小児の鍼灸治療
10回	肩関節痛①	25回	顔面神経麻痺①
11回	肩関節痛②	26回	顔面神経麻痺②
12回	腰下肢痛①	27回	顔面神経麻痺③顔面痛①
13回	腰下肢痛②	28回	顔面痛②
14回	腰下肢痛③	29回	顔面痛③
15回	定期試験Ⅰ	30回	定期試験Ⅱ
3 履修上の注意			
授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語は慎むこと。その他学則に順守する。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
1年時の解剖学(運動器・神経系)。東洋医学概論の知識をもとに進めていくため、運動器、神経系の解剖学的知識整理物質、臓腑の生理と病理を復習することが大事である。			
5 教科書			
東洋医学臨床論<はりきゅう編>			
6 参考書			
東洋医学概論 臨床医学各論			
7 成績評価の方法			
定期試験①と定期試験②を行いどちらも60パーセント以上を合格とする。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	臨床はりきゅう論2（経絡経穴概論Ⅲ）	
金 世野	鍼灸整骨院の実務経験		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉			
<p>経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。奇穴・奇経八脈について、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。奇穴は主治を理解し、取穴することが出来ることを目標とする。また、経穴を科学的・解剖学的な側面から探求することで、東洋医学的な側面との違いを考え理解する。</p>			
〈到達目標〉			
<p>臨床において、経穴に対して鍼灸施術をするため、その深層にある筋肉や神経の走行を理解することが必要不可欠である。解剖学的知識を意識して取穴が出来ることを目標とする。具体的に習得する範囲として、1. 奇穴、2. 奇経八脈、3. 現代研究、4. 経穴と筋肉・神経までとし、解剖学と経穴の知識をリンクさせることで、より臨床的な講義を展開し、理解度を深める。</p>			
2 授業内容			
1回	十四経脈復習	16回	十四経脈復習
2回	奇経八脈1	17回	運動器系・神経系の復習
3回	奇経八脈2	18回	頭部の経穴と筋肉・神経
4回	奇穴(頭部)座学・取穴	19回	頸肩部の経穴と筋肉・神経
5回	奇穴(腹部・背部)座学	20回	部位別取穴(頭顔面部・頸肩部)
6回	奇穴(腹部・背部)取穴	21回	上肢の経穴と筋肉・神経1
7回	奇穴(上肢・下肢)座学	22回	上肢の経穴と筋肉・神経2
8回	奇穴(上肢・下肢)取穴	23回	上肢の経穴と筋肉・神経3
9回	奇経八脈と奇穴の復習	24回	部位別取穴(上肢)
10回	取穴復習(体幹)	25回	体幹の経穴と筋肉・神経
11回	取穴復習(上肢)	26回	部位別取穴(体幹)
12回	取穴復習(下肢)	27回	下肢の経穴と筋肉・神経1
13回	経絡経穴の現代的研究	28回	下肢の経穴と筋肉・神経2
14回	総復習	29回	部位別取穴(下肢)
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
<p>取穴実技においては実技細則を遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。 学則に従い受講すること。</p>			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
<p>授業冒頭に確認試験を行うため、毎時間復習をして臨むこと。</p>			
5 教科書			
<p>新版 経絡経穴概論 医道の日本社</p>			
6 参考書			
<p>鍼灸学 経穴編(東洋学術出版社)、プロメテウス解剖学アトラス、カラー版 経穴マップ 第2版</p>			
7 成績評価の方法			
<p>定期試験1 および定期試験2、経穴番付それぞれ60%以上、暗唱試験の合格者を合格とする。</p>			
8 その他			
<p></p>			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	臨床はりきゅう論3（鍼灸診察学）	
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
金 世野	鍼灸整骨院勤務経験あり		
必修	2単位（60時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸臨床において患者を治療する際は、医療面接と身体診察から得た情報をもとに病態の鑑別と治療計画の立案を行う。この講義では鍼灸臨床に必要な医療面接と身体診察についてその理論を理解し、実践的な技術を身に付けることを中心課題とする。 医療面接では良好な患者-鍼灸師関係を構築するために必要なコミュニケーション能力や、医療面接に関する基本的な知識・技術・態度を、ロールプレイを通じて身に付けることを目標とする。身体診察では東洋医学的身体診察として脈診・腹診・背候診・舌診についてその理論を学び技術を身に付け、西洋医学的身体診察としては整形外科的理学検査を中心にその理論を学び技術を身に付ける。			
〈到達目標〉 医療面接と身体診察を用いて病態を把握する能力を身につけ、実際の診察技術として行えるようになることを最終的な到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	整形外科的理学検査（頰肩部）	16回	四診について
2回	整形外科的理学検査（頰肩部）	17回	舌診①
3回	整形外科的理学検査（上肢部）	18回	舌診②
4回	整形外科的理学検査（胸郭部）	19回	脈診①
5回	整形外科的理学検査（胸郭部）	20回	脈診②
6回	整形外科的理学検査（腰下肢）	21回	腹診①
7回	整形外科的理学検査（腰下肢）	22回	腹診②
8回	医療面接①	23回	背候診
9回	医療面接②	24回	問診①
10回	医療面接③	25回	問診②
11回	医療面接④	26回	問診③
12回	ロールプレイ①（総復習）	27回	総復習
13回	ロールプレイ②（総復習）	28回	総復習（筆記試験）
14回	復習（筆記試験）	29回	総復習
15回	定期試験	30回	定期試験
3 履修上の注意			
実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること ロールプレイを実施して授業を進めていくので、積極的に参加をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
東洋：東洋医学概論の教科書を必ず持参する事、東洋医学臨床論Ⅰ及び応用実技Ⅰの授業内容をリンクさせながら受講する事 西洋：授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、要点を見直し出来るようにすること。臨床医学各論Ⅰ、解剖学などを予習していることが望ましい。			
5 教科書			
新版東洋医学概論（医道の日本社）、臨床医学総論（医歯薬出版株式会社）			
6 参考書			
鍼灸臨床問診・診察ハンドブック（医道の日本社）			
7 成績評価の方法			
東洋：総復習（筆記試験）で筆記試験を実施する。筆記試験と実技試験の結果を合算し60%以上で合格とする。 西洋：総復習（筆記試験）で筆記試験を実施する。筆記試験と実技試験の結果を合算し60%以上で合格とする。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学・臨床きゅう学	あはきの適応判断（鑑別診断学）	
鈴木 誠	鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。		
必修	1単位（30時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 <p>実際の臨床現場では時に鍼灸治療不適応の患者に遭遇する場合がある。この時間では鍼灸師が行える医療面接および身体診察の結果から、鍼灸治療の適不適について判断できるように、医療施設への紹介を検討すべき疾患の症状・所見について学ぶ。</p> <p>具体的な内容として実際の診察技術として運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得するとともに、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する知識を学ぶ。</p>			
〈到達目標〉 <p>運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得することで、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する能力を身に付けることを目標とする。</p>			
2 授業内容			
1回	ガイダンス		
2回	整形外科的理学検査復習①		
3回	整形外科的理学検査復習②		
4回	整形外科的理学検査復習③		
5回	神経診察① 運動系検査		
6回	神経診察② 運動系検査		
7回	神経診察③ 反射検査		
8回	神経診察④ 感覚系検査		
9回	神経診察⑤ 脳神経検査		
10回	神経診察⑥ 脳神経検査・髄膜刺激徴候		
11回	鍼灸治療適応疾患の鑑別① 整形外科疾患		
12回	鍼灸治療適応疾患の鑑別② 整形外科疾患		
13回	鍼灸治療適応疾患の鑑別③ 神経疾患		
14回	鍼灸治療適応疾患の鑑別④ 内臓疾患		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
学生規則・実技細則を遵守して受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
患者の病態を鑑別するためには、先ず人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を理解しておく必要があるため、1年次に学んだ解剖学・生理学をしっかりと復習して授業に臨むこと			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
①筆記試験、実技試験を合算し60%以上の点数を合格とする。②2年次で課されるすべての課題を提出すること。 ①～②の全ての要件を満たすことで単位習得を認め、これらを総合して成績評価を行う。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	病態生理（病態生理学）	
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
必修	1単位（30時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 病態生理学とは、病気のときに体内で起きている生理学的変化を把握するための科目のこと。これが正しく理解できないと、当然、正しい治療方針の立案はできない。患者さんの体内で生じている機能や構造の乱れを認識し、正常な機能や構造の知識に照らして「どうしてそうなっているのか」を把握し、「よりよい状態にするために、こうすればいいのか」につなげるための素地をつくる。			
〈到達目標〉 学校内の臨床実習にて、患者さんが訴える主要な症状の原因を把握し、活用できる知識を習得することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	頭痛		
2回	発熱・のぼせと冷え		
3回	めまい		
4回	耳鳴り・難聴		
5回	咳嗽・喘息		
6回	疼痛について		
7回	腹痛		
8回	下痢・便秘		
9回	月経異常		
10回	血圧異常と動悸		
11回	睡眠障害		
12回	浮腫		
13回	免疫異常(花粉症・アレルギー)		
14回	総復習		
15回	試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
主に生理学の知識が必要となる。			
5 教科書			
新版 東洋医学臨総論（はりきゅう編）、臨床医学総論 第2版			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
試験で60点以上の成績をもって合格とする。 ※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	生体観察（局所解剖学）	
佐々木慎司	接骨院の実務経験		
必修	1単位（30時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>鍼灸師は、2人として同じではない人体を、眺めるだけでなく、実際に触れられる必要がある。本科目では、系統解剖学で学習した構造同士がつくる解剖学的な特異構造に焦点を当てる。その多くは、鍼灸領域で有用な治療点として用いられることが多い。</p> <p>知識の習得により、解剖学的に脆弱な部位を避けられるようになり、また目標構造を的確に狙い、効率の良い施術が行えるようになる。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>各部の局所解剖を学ぶことで、人体についての理解を深め、安全で効果的な施術をする際の拠り所となる知識を身に付けることを目標とする。</p>			
2 授業内容			
1回	頸部の局所解剖学①		
2回	上腕部の局所解剖学		
3回	前腕部と手部の局所解剖学		
4回	頸部の局所解剖学②		
5回	胸部の局所解剖学		
6回	背部の局所解剖学		
7回	腰部の局所解剖学		
8回	肩胛部の局所解剖学		
9回	大腿部の局所解剖学		
10回	下腿部と足部の局所解剖学		
11回	頸神経叢と腕神経叢の走行と経穴		
12回	腰神経叢の走行と経穴		
13回	仙骨神経叢の走行と経穴		
14回	総復習		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
集中して講義を受講できるようにする為に、体調管理を行うこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
骨の部分名称、筋の走行、主要な神経・血管の走行等。系統解剖学の知識が必要となる。			
5 教科書			
解剖学第2版 東洋療法学校協会編			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
試験で60点以上の成績をもって合格とする。 ※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。			
8 その他			

専門分野	実習	はりきゅう実技2A（応用実技Ⅰ）	
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸臨床において、どの経穴をどのような場合に使用するかは必須となる知識である。この授業の前半では鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、どのような場合に用いられるか、また実際に刺鍼する場合の深度や角度・注意すべき点などについて学ぶ。またカルテの作成についても学び、実際作成してみる。後半は具体的な症状であったり弁証であったりを想定し、その治療に使える経穴について学んでいく。			
〈到達目標〉 鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、取穴し経穴に対して刺鍼・施灸ができるようにすることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	16回	美容鍼灸①
2回	下腿にある経穴	17回	美容鍼灸②
3回	上肢にある経穴	18回	色々な肩こり・腰痛・頭痛の治療①
4回	手足にある経穴①	19回	色々な肩こり・腰痛・頭痛の治療②
5回	手足にある経穴②	20回	東洋医学的な治療①難経・六十九難
6回	頭顔面部にある経穴	21回	東洋医学的な治療②気滞証
7回	腹部にある経穴	22回	東洋医学的な治療③陰虚証
8回	頭痛に対する治療穴	23回	東洋医学的な治療④痰湿証
9回	肩こりに対する治療穴	24回	東洋医学的な治療⑤虚証
10回	腰痛に対する治療穴	25回	総復習①
11回	胃腸を整える治療穴	26回	総復習②
12回	自律神経を整える治療穴①	27回	定期試験
13回	自律神経を整える治療穴②		
14回	カルテの作成①		
15回	カルテの作成②		
3 履修上の注意			
実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
毎回の授業で要穴チェックの口頭試問と取穴をする。各自復習して臨むこと。経穴課題とミニテストを実施する。全て提出されていない場合、最終評価を取り消す。			
5 教科書			
6 参考書			
臨床経穴ポケットガイド361穴(医師薬出版株式会社)			
7 成績評価の方法			
実技試験を実施する、60%以上を合格とする。またカルテの作成課題も評価に加味する。毎回の授業で経穴課題を配布し翌週確認テストを実施する。ただし、課題がクリアできていないものについては最終評価を取り消す。			
8 その他			
日によって授業時間数が2コマ又は3コマの場合がある為、授業内容（回数）を24回で表記しています。			

専門分野	実習	はりきゅう実技2B（応用実技II）	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
必修	2単位（60時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸臨床において骨・筋・その他の構造物の位置を知り実際に触診できること正確な取穴や安全で効果的な施術のために不可欠な知識である。この科目では体表より触知できる構造について実際に触診して確認していく。またそれに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになることを目標とする。			
〈到達目標〉 体表より触知できる構造について実際に触診ができて、それに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになる。			
2 授業内容			
1回	イントロダクション、灸頭鍼、台座灸	16回	骨盤の筋の触診と刺鍼・施灸
2回	前腕の骨の触診と刺鍼・施灸、隔物灸①	17回	大腿と膝の触診と刺鍼・施灸
3回	前腕の筋の触診と刺鍼・施灸	18回	下腿の筋の触診と刺鍼・施灸①
4回	肩甲骨と周辺の筋の触診と刺鍼・施灸	19回	下腿の筋の触診と刺鍼・施灸②
5回	上腕部の触診と刺鍼・施灸、隔物灸②	20回	定期試験2
6回	胸部・腹部の触診と刺鍼		
7回	吸角療法		
8回	脊柱の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸		
9回	背部の筋の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸		
10回	定期試験1		
11回	全身治療1		
12回	全身治療2		
13回	頭部の骨の触診と刺鍼・施灸		
14回	顔面の筋の触診と刺鍼・施灸		
15回	骨盤の触診と刺鍼・施灸		
3 履修上の注意			
実技細則を順守すること。自ら技術を習得しようとする積極的な態度で臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
1年次に学習した骨・筋についてしっかり復習しておくこと。			
5 教科書			
ボディ・ナビゲーション（アンドリュー・ピエル）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
指定された課題の提出状況と実技試験（鍼・灸）により評価を行う。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。			
8 その他			

専門分野	実習	臨床実習前施術実技試験等（OSCE）	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
必修	1単位（30時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 OSCE（Objective Structured Clinical Examination＝オスキー）とは臨床実習を行う臨床能力を身に付けているかを試す客観的臨床能力試験のことである。この講義では3年次の臨床実習に向けて、1・2年次に学んだ医療面接、身体診察、取穴、施鍼、施灸について、必要な知識・技能・態度を修得しているかを確認する。鍼灸臨床の一連の流れを実践しながら各項目の評価を受け、基準に到達していない場合はフィードバックを受けて改善することが目的である。			
〈到達目標〉 3年次の臨床実習に向けて、円滑に鍼灸臨床の一連の流れである患者接遇、医療面接、身体診察、施術などを実践できることを到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	イントロダクション、試験概要説明		
2回	鍼灸実技練習		
3回	理学検査、東洋診察練習		
4回	医療面接練習①		
5回	医療面接練習②		
6回	取穴練習		
7回	鍼灸実技練習		
8回	理学検査、東洋診察練習		
9回	プレ臨床実習1		
10回	プレ臨床実習2		
11回	プレ臨床実習3		
12回	総合練習1		
13回	総合練習2		
14回	技能検定 1（医療面接、東洋医学的診察）		
15回	技能検定 2（鍼、灸、理学検査、取穴）		
3 履修上の注意			
実技細則を順守すること。自身が臨床を行うことをイメージして実習に臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
鍼灸基礎実技および応用実技、経絡経穴概論、鍼灸診察学、鑑別診断学の知識は必須である。しっかり復習しておくこと。			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
医療面接、身体診察（東洋医学的・西洋医学的）、取穴、鍼灸実技について、各項目を評価する。 不合格な項目があるものは3年次の臨床実習での施術を行うことができない。			
8 その他			
日によって授業時間数が2コマ又は3コマの場合がある為、授業内容（回数）を13回で表記しています。			

専門分野	臨床実習	臨床実習A（臨床実習Ⅰ）	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
必修	1単位（45時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉			
臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を見学することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術がどのように応用されているかを知り、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行うことができるようになり、患者さんのもつ諸問題を解決しながら適切な患者－治療者関係の構築をはかれるようになるにはどうしていけばよいかを考えることを目的としている。一連の鍼灸臨床のプロセスの見学を通して学生自身が「自分だったらどのような施術をするか。」「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。			
〈到達目標〉			
臨床現場での治療を見学することで、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術がどのように応用されているかを知り、自分自身が面接から治療後までのアドバイスを行うことができるようになるようするにはどうすればよいかを考えることを目標とする。また実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。			
2 授業内容			
1回	臨床実習		
2回	臨床実習		
3回	臨床実習		
4回	臨床実習		
5回	臨床実習		
6回	臨床実習		
7回	臨床実習		
8回	臨床実習		
9回	臨床実習		
3 履修上の注意			
自分であったらどのような対応・施術をするかを常に念考え、積極的な態度で臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
臨床実習においてはこれまでに学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識を身に付けて臨む。			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
出席状況および実習への取り組み方、授業を通しての成長度、課題の提出状況などを元に総合的に評価する。			
8 その他			

専門分野	総合領域	専門科目 A (鍼灸基礎学)	
山元大樹	鍼灸院の臨床経験有、鍼灸院院長		
必修	2単位 (40時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>この講義は、鍼灸師として身に付けるべき基礎知識を総合的に学習する。また自分自身の価値観を明確にして、キャリアイメージを思い描く。</p> <p>さらに「鍼灸師」という職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望や自分自身がどのような鍼灸師になりたいかについて、学生自らが考えながら学習をすすめることを目的とする</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>どんな人生を歩みたいか。その上で「鍼灸師」としてどのような生きていくのか。思い描ける自分になる。職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望を学生自らが考えることができるようになる。</p>			
2 授業内容			
1回	オンライン：ガイダンス(現代日本の課題)	16回	オンライン：臨床実習に向けて
2回	オンライン：リベラルアーツ	17回	対面：臨床実習に向けて
3回	オンライン：夢を描く		
4回	オンライン：自分を探求する		
5回	対面：オンラインのまとめ		
6回	オンライン：EBM		
7回	対面：論文を調べてみる(発表)		
8回	オンライン：医学史		
9回	オンライン：医学史		
10回	オンライン：医学史		
11回	対面：臨床実習に向けて		
12回	オンライン：臨床実習に向けて		
13回	対面：臨床実習に向けて		
14回	対面：臨床実習に向けて		
15回	対面：臨床実習に向けて		
3 履修上の注意			
自分がどのような鍼灸師になりたいのかをイメージしながら臨むこと。参加型の授業の場合は積極的態で臨むこと。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
提出課題及び最終評価のレポート提出で評価を行う。			
8 その他			